

第15回 日本・中国・韓国 ジュニア交流競技会



中国 広西チワン族自治区桂林市 桂林市スポーツセンター

平成19年8月21日(火)～8月29日(水)

- 21日～22日 強化練習(大阪うつぼテニスコート)
- 23日 桂林着・監督審判会議
- 24日 練習・開会式
- 25日 韓国戦
- 26日 桂林戦
- 27日 中国戦
- 28日 参加選手団見学・研修
- 29日 桂林発・帰国



テニス競技・日本選手団

団 長	宮浦 典善 (全国高等学校体育連盟テニス部部长)
男子監督	沢野 唯志 (全国高等学校体育連盟テニス部副部长)
男子選手	廣田 耕作 (龍谷高等学校) 長尾 克己 (長尾谷高等学校) 大野 貴央 (東海大学菅生高等学校) 渡辺 輝史 (湘南工科大学附属高等学校)
女子監督	迫田 義次 (宮崎商業高等学校監督)
女子選手	大竹 志歩 (富士見丘高等学校) 松島美智留 (園田学園高等学校) 荒木 史織 (宮崎商業高等学校) 桑田 寛子 (早稲田実業学校高等部)



日本選手団の編成

陸上競技	23人	サッカー	20人
テニス	11人	バレーボール	29人
バスケットボール	29人	ウェイトリフティング	18人
ハンドボール	33人	ソフトテニス	15人
卓球	13人	バドミントン	15人
ラグビー	25人	本部	8人
視察員	14人	総合計	253人



大きな成果と課題

団長 宮浦典善

8月21日、大阪うつぼ公園テニスコートに集合し、選手たちのチームワークの強化とハードコートに慣れさせるため、又、団体戦の意識を高めるため合同練習を実施した。廣岡大阪高体連テニス委員長と佐藤大阪テニス協会会長に大変お世話になり、又、実業団ワールドの選手に練習相手をしていただき、充実した合同練習会となった。

8月22日、午後5時、りんくうタウンワシントンホテルで本隊に合流。結団式を行い、翌23日、桂林に向け出発し16時に到着した。24日、練習後開会式に参加した。団長・監督連絡打合せ会議では、コート一面進行が提案され、試合日程が大変なことが予想された。また、雨天時、室内コート一面で4対戦を1セットで行う点も無理が予想された。

8月25日、対韓国戦。男女ともにシングルス0-2からダブルスを勝ち、残るシングルス勝ち、3対2で逆転勝利を収めた。選手が一丸となり、応援にまた試合に粘りを発揮し勝利した。合宿での合同練習の成果であろう。韓国に勝ったのは男女とも10年以上前以来であろう。

8月26日、地元桂林戦は、男女ともに5-0の完勝であった。

8月27日、男女ともに全勝同士で中国と決戦になった。男子はよく粘り好試合が展開されたが、中国のパワーテニスに0-5で敗退した。女子は8時30分から21時40分まで13時間を超える長い戦いをし、粘ったが、1-4で敗れた。選手は第4シングルスが4時間を超す戦いをし敗れた。が、選手はどの試合もあきらめず、まさにアウェーの雰囲気最後まで粘り強い戦いを繰り広げてくれた。又、試合が終われば全員一丸となって応援をし、他国に対し団体戦の戦いの模範となる応援であった。

今後の課題は、一つは2面進行の徹底。そのため8面のコート室内2面のコート（雨天時）の確保をお願いしたい。1面進行で13時間、監督がコートに入らなければならず、監督の体調面も考え、コーチを一人正式に追加し、協会代表も加え、4人体制で交互にコートに入れるようお願いしたい。そうすれば2面進行でも各コートに指導者が入れ、選手にコーチでき、成果が上がるものと考えます。

今回、体育協会の役員の方々には、堅物団長をはじめ、応援に来て下さり、選手も意気が上がり頑張ったと思います。ありがとうございました。又、飛行機の荷物の問題も適切に処理していただき、混乱もなく、無事帰国できました。本当にありがとうございました。又、御苦勞様でした。



JAPANへの寄せ書き

男子監督 沢野唯志

5回目の日・韓・中ジュニア交流競技大会への参加となります。初めが中国石家荘での大会であり、今回が中国桂林。そしてこの大会は私にとっては特別に感慨深いものとなりました。

まず、宮浦団長・迫田監督という素晴らしい指導者とともに日本代表として参加できたことに感謝申し上げます。21日の日本選手団としての初ミーティングの時から、私たちは「日本代表としての誇りを胸に、勝利を目指して闘う姿勢を堅持しよう」と誓い合いました。

韓国戦では、男女ともシングルス2敗という絶体絶命の状況からダブルスを接戦でものにし、大逆転勝利をしました。ベンチに座っていても選手の気迫がひしひしと伝わってきて負ける気はしませんでした。もちろん、宮浦団長の声援が日本選手団を鼓舞したことはいうまでもありません。私にとっては、男女が全く同じ展開で韓国に劇的な勝利をしたという経験は初めてのことで、生涯忘れることのできない試合となりました。勝利の瞬間には日本選手団全員が肩をたたき合って健闘を讃え合いました。

中国戦は13時間にも及ぶ大激戦となりました。ナイターに突入すると同時に雨が降り始め、室内コートでの闘いとなりました。2階席に陣取った両国の選手団は、一球一球に大声援を送り熱狂的な雰囲気の中で両国選手は力を出し切りました。試合が終わった瞬間に中国選手は全身けいれんで動けなくなり、日本代表の桑田選手は泣き崩れました。壮絶な試合でしたが、中国選手団のコーチの次の言葉が心に残っています。

「日本選手団のチームとしてのまとまりの強さに感動した。最後まであきらめないプレーと、マナーの良さを学びたい。」

最終日、ホテルで帰りの支度をしている時、私は男女選手に突然呼び出されました。何事かと出てみると、JAPANのTシャツに選手達が寄せ書きを書いて渡してくれたのです。思いがけないことに素直に胸が熱くなりました。私の最後の「日・中・韓」はこのように感慨深いものでありました。

素晴らしい指導者・選手達と日本代表として闘うことができたことに心から感謝します。



日本選手団の結束力の強さ

女子監督 迫田義次

第15回日・韓・中ジュニア交流競技会が、8月23日～29日の7日間にわたって中国の桂林市において開催されました。これに先立って8月21日・22日の2日間大阪市の靱テニスセンターで事前合宿を行い大会に備えました。合宿においては、大阪府テニス協会及び高体連テニス部の全面的なご支援により、コートや練習パートナーの手配をいただきました。お陰様で大変有意義な成果のある事前合宿となりました。心より感謝申し上げます。この事前合宿により、普段一緒に練習する機会の少ない代表選手が、お互いの特性や個性を感じ合いながら意識を高めることができました。日本選手団が一致団結して大会に臨む上でも大変重要なことだと感じました。

試合は、初日韓国と対戦し、3勝2敗で勝利することができました。シングルスで2連敗し、後がない状況から3連勝しての逆転勝ちでした。女子チームとしては久しぶりの韓国戦勝利と言うことで、チームも大変盛り上がりました。二日目は、地元の桂林チームと対戦し、5連勝の圧勝という結果でした。大会最終日は、中国との対戦で1勝4敗という結果に終わりましたが、内容的には互角に試合が多かったと思います。朝8時30分にスタートした試合は、夜の9時40分終了という大熱戦となりました。

試合全体を通して感じることは、日本選手団の結束力の強さでした。大型選手の多い韓国・中国の選手に対し、各選手が一步も引き下がることなく対抗している姿が印象的でした。ここでも、事前合宿による目的意識の徹底やチームとしての結束が力になっていることを感じました。ナショナルチーム等の海外トーナメントツアー参加に向けても、「日本チーム」としての事前の合宿等を充実させて結束を図ることが必要だと思います。

最後に、遠征を終えるに当たって大きな課題を感じています。それは「韓国・中国選手がデカイ」ということです。海外での経験や技術指導など重要なことは多くありますが、何より最優先しなければならないことは、テニス選手の発掘・育成の視点を見直し、減点を見直すことが必要ではないかと思っています。

今回の日韓中ジュニア交流競技会に監督として参加し、大変多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました。



『感謝』する気持ち

大野 貴央（東海大学菅生高等学校）

〈遠征への意気込み〉

私は日本代表として団体戦で戦うのは初めてである。しかし海外遠征をすることは何度かあり、外人とのコミュニケーションは慣れている。何よりコミュニケーションが大好きである。今回は最年長として行くので今までの経験を活かし、テニス以外の面でもチームをひっぱり、盛り上げて良いチームを作ろうという気持ちで臨んだ。そして勝つ！！

〈学んだこと〉

中国遠征で一番学んだことは『感謝』する気持ちである。私は今まで「感謝する気持ちを大切にしてください」と親や先生、たくさんの方に言われてきた。でも私は「ありがとう」と表面上で相手に伝えれば良いと、感謝することを疎かに考えていた。しかし今回遠征では中国の生活環境を目の前にして、改めて私の今いる環境のありがたさを実感した。他にも、200人以上の団体で行動したにも関わらず、最後までスムーズに行動できたのは事前の計画など引率の方々の熱心な姿勢のお陰である。

中国遠征を通し、自然と親や先生、高体連やテニス関係者の方々への感謝の気持ちでいっぱいになった。この「感謝の気持ち」を忘れずに、そして大切にしてください。これからの私のテニス人生に活かしていきたい。

〈感想〉

今回は男子チームのキャプテンとして自分なりに頑張ってきた。チームの雰囲気は日に日に良くなっていくのを見ると、とても嬉しかった。テニスはもちろん、テニス以外の生活でたくさん学べた中国遠征。

たくさん喜び、悔しさ、責任、そして出会い、高校生活最後に本当に良い経験ができた。

日中韓という私にとって生涯の宝物となる経験を与えて下さった高体連の方々に心から感謝したい。



『武器』の大切さ

大野 貴央（東海大学菅生高等学校）

〈強く感じたこと〉

今回、試合を振り返って一番強く感じたことは『武器』の大切さである。韓国の選手も中国の選手も、何かしらの強い武器をもっている。私達、日本選手も「これだけは絶対に負けない」という武器を作らなければ、と強く感じた。

〈他国のコーチから〉

私は試合が終わると、積極的に他国のコーチや監督にアドバイスを貰いにいった。中国チームのオーストラリア人のコーチからは「2ndサーブの回転が少なく、軌道が低い」と言われた。そして「フォアハンド。今の時点でもフォアやバックのストロークは良い。でも今のフォアでは上に行ったら通用しない。もっと強烈で重いボールを打とう！！ボレーはとても上手いのだからチャンスが増えるはずだ。」と、的確なアドバイスを頂いた。

次に、試合を見ていた桂林のコーチにもアドバイスを貰いにいった。

「今のテニスの形、積極的に前に行こうとするところがとても良い。ただ、精度をもっとあげる必要がある。そのために普段からもっともっと質の高い練習をなささい」とアドバイスを頂いた。

〈感想〉

全体的に振り返り、技術やメンタルはまったく負けていないと感じた。しかし、サービス力と体力にはかなりの差がある。

『このポイント』というときにサーブ1本で決められたり、3日間の連戦にも衰えることを知らず、常に動き回っていた体力もすごい。

しかし、3年前と比べて『戦っていける』と強く感じた遠征だった。そして何より、たくさんのコーチに積極的にコミュニケーションしにいき、たくさんのアドバイスを頂いたのは、自分にとって大きな成長であり、そして更に成長するキッカケになった。このモチベーションを忘れずに日本でもテニスをしっかり頑張りたい。強い武器を作るぞ！！



スポーツを通しての交流

長尾 克己（長尾谷高等学校）

自分はテニスの試合で海外遠征は初めてで、正直、不安がありました。試合中の言葉、会話、など上手にできるか…でも実際中国に来てみて、試合をして、ホテルに行ったり、スーパーに行ったりしても何とかかなり、英語の勉強にもなりました。通訳の人にいろいろと中国語も教えてもらい楽しく行動できました。後、自分が思った事は、中国は、スポーツが好きの人が多いと思いました。

テニスコートの横にあったバスケットコートには、常に誰か人が居てゲームをしたり、練習をしたり、その隣ではランニングをする人もいれば、太極拳をしている老人やみんな汗を流して、楽しそうにしていました。自分と大野は、時間があったので、バスケットをしている2人組に「一緒にやろう！」と言い、ゲームをしました。このような外国で外国人と一緒にバスケットをするなんて滅多にないし良い思い出になりました。強く印象に残っています。やはりスポーツを通しての交流は素晴らしいなあと思いました。自分がこの遠征で一番、頭に焼き付いた事は、中国の食事に最後まで慣れることが出来なかったことです。

日・中・韓の試合は自分にとっていい経験になり、いろいろ勉強になりました。外国人との会話、夜遅くまでやった試合、まずい食べ物、やたらと物を売ってくるおばちゃん、素晴らしい桂林の山々などすごく楽しい一週間でした。



桂林の町には「熱烈歓迎」の横断幕が掲げられていた。



自分のプレースタイルを貫く

長尾 克己（長尾谷高等学校）

25日の韓国戦は、S1の大野S2の廣田が落として0-2、ダブルス1の長尾・大野の自分たちに回ってきました。ペアの大野とは公式の試合では組むのは初めてで、正直不安はありましたが、試合が始まりプレーしてみると、すごく良かったです。ボレーの息も合い、楽しくできました。苦しかったですけど7-6、6-4で勝つことができ日本チームに貢献できて嬉しかったです。後、自分はS4でも出場し、6-2、6-2と快勝し、S3の渡辺も勝ち、日本が逆転勝利しました。

26日の桂林戦は、S1廣田、S2長尾、D1大野・長尾、S3大野、S4渡辺というオーダーでいきました。桂林戦は、みんな快勝でスコアもまとまり、5-0で圧勝できました。良い状態で中国戦に臨むことができました。

27日の中国戦は、韓国戦と同じオーダーで行いました。中国の選手は皆背が大きくて、体がかっちりしていて、パワフルなテニスをしてくるチームでした。S1、S2、D1、S3、S4、すべて落として0-5で負け、完敗でした。ダブルスは、1stセットはボレーをミスしないように行こうとしつこく言い、ねばり強くプレーしてたらとれましたが、ファイナルセットはノリで持って行かれました。シングルでは自分のプレー、サービス&ダッシュを使い果敢に行きましたが、パスがうまくて、簡単にポイントが取れませんでした。中国の選手はひざの使い方がうまかったです。今後の自分の課題は、1stサービスの確率を上げることと1stボレーの角度をもっとつけることです。

これからも自分のプレースタイルを貫いて、もっと上をめざしてがんばります。



集中力の持続、体力の持続

廣田 耕作（龍谷高等学校）

一日目は韓国と対戦した。前日の練習を見ているとすごく強そうに見えたが、自分はシングルス2で出場した。これは当たっていくしかないと思って最初から攻めていった。途中までそれがよくて、キープ・キープで4-4までいった。しかし、ここで集中力が切れたのか5-4になってそのまま4-6でファーストを落とし

てしまった。セカンドはサーブをしっかりと頑張っていこうと思ってやってみた。このセットキープ・キープでタイブレークまでいった。タイブレークは最初にミニブレークをされたが、すぐブレークバックができ、7-5でタイブレークを取れた。ファイナルは2-2までよかったが、2-3で自分のサーブを簡単なミスで落としてしまい、その後すぐにブレークバックしたが、また自分のサーブを簡単に落として、そのままキープされて3-6だった。自分の課題は集中力の持続、体力の持続だということが身をもってわかった。

この後ダブルスがしっかりとってくれて、シングルス3、4ととって3-2で逆転勝ちをした。驚いてしまったけど、みんなすごくいいプレーをしてくれて、勝つことができ本当に嬉しかった。チームっていいなと思った。

二日目は地元桂林として、自分はシングルス1にでた。相手のシングルス1の選手は実力も一番だった。1セット目は、最初ブレークして、途中ブレークバックされて少しあせったが、またブレークして6-3でとった。セカンドは相手が集中を切らして、ミスが早かったから6-0だった。初日負けて今日は絶対勝とうと思っていたよかった。みんなこの後快勝して5-0で勝った。

三日目は中国戦であった。最後だし力を出しきろうと思ってやった。1セット目は、3-2で相手サーブをブレークでき5-2にできた。そこから少し長かったけど、6-2でとった。このセットは自分でも結構できがよかったと思った。2セット目は相手が緩急をつけてきてそれにハマってしまい、ミスが増えた。肝心のポイントで取れないことが多く、0-6で落としてしまった。ファイナルセットは気を取り直していこうと思ったけど、2-2で自分のサーブを落としてしまい、これで流れは相手に行き、2-6でそのまま負けてしまった。チームはこの後ダブルスも惜しくも負けて、シングルスはどちらも落として0-5で負けてしまった。悔しかった。自分が勝っていれば流れは着ていたかもしれないとも思った。しかし、中国はやっぱり強かったというのが感想である。



テニス出来る喜びと感謝の気持ち

渡辺 輝史（湘南工科大学附属高等学校）

9日間中国に遠征しに来て初めて日本が恋しくなりました。中国のご飯が会わなくて食生活がバラバラになってしまって、健康管理するのが大変でした。実際におなかを壊した中試合をしなくてはいけない状況もあったし大変な遠征だったと思います。でも、もっと大変な環境の中試合をしなくてはいけない大会もあると思うのでよい経験になったと思います。

また中国に遠征しに来て改めてテニスをやっていてよかったと思いました。テニスという競技で友達ができるし、ほかの人には経験のできないことをできるからです。テニスをやっていてつらいことはたくさんあるけれどそれ以上に楽しいことや、嬉しいことがあると思う。本当にテニスをやっていてよかったと思います。

この遠征でテニス出来る喜びと感謝の気持ちを忘れてはいけないということを学びました。この遠征で学んだことをこれから活かしていきたいと思います。

最後になりましたが、この遠征に参加させて頂きありがとうございました。本当にありがとうございました。



試合前円陣を組んで勝利を誓い合った。



国を背負って戦うこと

渡辺 輝史(湘南工科大学附属高等学校)

8月21日～29日、日本代表として日中韓交流競技会に参加しました。国を代表して遠征するのは2回目でしたが、改めて国を背負って戦う大変さを思い知った遠征でした。

僕は今回この遠征で「自分と他国の選手のの違い」を見つけたいと思っていました。他国の選手と会ってまず思うのは身長がでかいということ。ほとんどの選手が180センチ以上あって威圧感がありました。日本選手はそこまで小さいわけではなかったけど、他国の選手と並ぶと筋肉の違いですごい身長差に思えてしまいました。

対韓国戦。韓国選手はすごくしつこく打っても打ってもエッグボールで打ち返してきました。日本選手としてはやりにくい相手だと思います。中途半端に攻めればカウンターがくるし、ラリー戦になれば攻めている自分にミスが出やすくなってしまいます。けれど僕は韓国選手と試合をして自分から攻めてポイントを取りにいかないで勝てないなと思いました。ラリーは続くけど落ち着いて先に先に展開して相手を走らせてネットでポイントを取る。ネットに出れば相手にプレッシャーがかかるし、ストロークで打ち合ってもポイントが取れないからです。韓国選手と試合をしてネットに出なくては世界相手には勝てないなと実感することができました。

対中国戦。相手は186センチぐらいあってビックサーバーでした。一発ショットを持っていてチャンスボール以外は韓国選手と同じようにエッグボールでラリーしてきます。でも韓国人と比べると荒い気がしました。中国人選手にはラリー戦に持ち込むことが大切だと思います。相手は一発で勝負してくることが多いし、ラリー戦になるとバランスを崩してミスをしていることが多かったからです。今回僕は4-6、2-6で負けてしまったけれども、そこまで中国人選手との差は感じませんでした。確かにサービスと一発ショットはすごかったけど、しつこくラリーしたらぜんぜん負ける気がしませんでした。今回負けたのは我慢してラリーする技術がなかったのとファーストサービスの確率が悪かったのが敗因だと思います。

今回の遠征を振り返って1番「自分と他国の選手のの違い」を感じたことは、他国の選手には我慢強さがあるということ。今の自分には本当に我慢強さというものがないと思います。だから大事なポイントのときに無理な体勢から無理やり打ってミスしてポイントを落としているのだと思います。攻めなくてはいけないけれども我慢強くラリーしてチャンスを待つということが自分には足りないと思いました。



支えて下さった人達への感謝

荒木 史織（宮崎商業高等学校）

1週間、合宿や中・日・韓ジュニア交流競技会を終えた私にとってとても勉強になったことがたくさんありました。多くの参加競技があり、団体での行動、時間、マナーなど将来の人間性をこの遠征で高められたと思います。

特に、団体行動は今まで話したことの無い人達との行動だったので最初はなかなか噛み合わないことが少しあったけど、どんどん過ごす時間が経つごとにお互い心を開き団体行動も良いムードでした。

私は、中国に来るのは初めてで、この遠征の前はとても緊張しました。中国桂林市はとてもきれいで自然がたくさんあり良い所でした。食べ物も日本にはない食材があり珍しい物がたくさんありました。中国人や韓国人もとてもいい人達で、いろいろと親切にしてもらいました。これを機にもっと交流を深めていきたいです。

私がこの遠征に参加できたのも、先生、保護者、チームメイト、その他のいろいろ支えて下さった人達のご支援があったからこそだと思います。本当にこの遠征に参加できたことに感謝と誇りを持ちたいと私は思います。もう参加することはできませんが、この遠征を通してもっと自分を成長させていきたいです。本当にありがとうございました。



黄色のTシャツのボランティアの大学生と記念撮影



強気で最後まで戦い続ける精神

荒木 史織（宮崎商業高等学校）

中・日・韓ジュニア交流競技会を振り返ってまず、第1試合目の韓国戦ではなかなかポイントを取れずかなり接戦が続きました。私は韓国戦にはダブルスとシングルに出ました。ダブルスはラリーが長く続きポーチに出ることがあまりできませんでした。お互いに助け合い元気にプレーができ、勝つことができました。シングルスは、1ポイント1ポイントが長く苦しい場面がありましたが、強気で攻めることができたので勝利につながりました。

第2試合目は中国地元の桂林選手と試合をしました。桂林の選手はどんなに攻めてもあきらめず拾って返してきました。私ももっとそういう所をまねしたいと思います。

第3試合目の中国戦は、どの試合も接戦でいい試合ばかりでした。ダブルスは、韓国戦よりもポーチに出ることができたので、それがポイントを左右しました。この大会のダブルスで思ったことは、相手よりも速く、勇気を持ってポーチに出ることです。日本に帰っても、もっと積極的にポーチに出たいです。最後のシングルスは、体力も体も相手についていけず、ボロボロでしたが、相手に立ち向かう大切さ、強気で最後まで戦い続ける精神が今の私には足りないものが分かったので、私にとって大きい物を得られたと思います。この大会で経験した試合を日本に帰っても振り返り、今後の自分の成長につなげたいと思っています。



地元高校生の合唱（開会式にて）



日本の勝利を目標として

大竹 志歩（富士見丘高等学校）

この遠征は今までで1番楽しい遠征でした。

いつもは敵として戦っているメンバーと同じチームとして戦って、心の底から応援することができたことがとてもうれしく思います。日本代表として他国と戦ったことが人間として私を大きくさせてくれたと思います。

初日はあまりまとまりや信頼関係もなく不安なことが多かったのですが、一緒に行動していくうちに仲良くもなれたし自然と心から接することができるようになりました。

様々な地方から集まった選手たちが円陣を組み、日本の勝利を目標として頑張ったことは私にとって一生の宝物になると思います。

他にもファンと言ってくれて応援してくれる子ができたり、他国の人とも交流できたり、テニスを通じて色々な貴重な体験ができました。

本当にこの機会を与えてくださった皆様に感謝したいです。

こんなにすばらしい遠征にできたのも宮浦先生、迫田先生、沢野先生、通訳の方など、たくさんの人のサポートのおかげだと思っています。この遠征に関わった方々本当にありがとうございました。

今回の経験を活かし、これからも頑張っていきたいと思います。

またどこかでお会いしたら応援よろしくおねがいします。



強いメンタルをもつこと

大竹 志歩（富士見丘高等学校）

この試合を振り返って、1番自分に足りないと感じたのは強いメンタルをもつことでした。

初日の韓国戦、ファーストセットを6-0で取り少し油断してしまいました。その結果、セカンドセットを競って落とされたあとファイナルセットはやることなくなくなってしまい手も足も出ない状況でした。相手の方がセカンドセットからの開き直りの攻撃が全て入って流れが変わってしまったのだと思います。私はセカンドセットでもっとアングルショットやループボールを使って相手のペースに合わせないようにし、試合を終わらせておかなくてはいけなかったと思います。ダブルスは初めて荒木さんと組ませてもらって息が合うか心配でしたが、荒木さんが後でボールを作ってくれたのでポーチに出やすかったし、大事なところでボレーも決めてくれてとても頼りになるパートナーでした。それに、ミスしても明るくテンションを上げてくれたりしてすごく組みやすかったです。

2日目の桂林戦では、どの試合も実力に差がある感じで簡単に勝てました。ダブルスも桑田さんと初めて組んで、元気に出来たと思います。

最終日の中国戦では、相手がとても粘り強く自分の方が先にミスをしてしまいました。精神的にもとても強い人で、ファーストセットタイブレーク5-3までリードしたのにそこから長いラリーでしのいできて最終的にとられてしまいました。セカンドセットは自分の体力の方が劣っていてストロークの威力が落ち、ボールが決まらなくなってきてしまいました。私には、体力・精神力ともにまだまだ足りないなあと感じました。ダブルスは荒木さんと2回目の試合でだいぶ相性もあってきた良い感じでした。

この日・中・韓戦では本当に多くのことを学ぶことができました。

これからもこの試合を活かして、強いメンタルをもつこと・相手のペースを変えること、ドライブボレーを確実にすることを課題に頑張っていこうと思います。



英語の学習に力を入れたい

松島美智留（園田学園高等学校）

一週間にわたる遠征を終えて中国の暮らしに少し慣れました。はじめは、食事が口にあわなくてあまり食べることができませんでした。しかし、日を追うごとに中国の食事がおいしいと思えるようになりました。

苦労したのは言語です。相手の人も私が日本人とわかって、英語で話をしてくれましたが、私は英語が苦手なので理解するのに時間がかかりました。聞きたいこともたくさんあったのですが、聞けませんでした。やはり世界共通の英語が話せないと苦労します。今後、英語の学習に力を入れたいと思いました。

日本に早く帰りたいとも思いましたが、この遠征は私にとってとてもよい経験になりました。そして、日本のトップレベルの人たちと同じ環境にいられたことがとても嬉しく思います。

テニスチームを支えてくれた監督、団長、また日本のチームを支えてくれたたくさんの方に感謝します。

中国のボランティアの人たちもみんなやさしくてコートでの整備や大会の運営に協力してくれました。この遠征は楽しくとても充実したものとなりました。

これからもテニスを頑張り、来年もこの遠征に参加したいです。



悔しさいっぱい試合

松島美智留（園田学園高等学校）

三カ国との対戦を振り返って、悔しいという気持ちでいっぱいです。初日の韓国との対戦に私は

負けてしまいましたが、他のチームメイトが頑張ってくれて勝つことができました。私の結果は0-6、2-6と完敗でした。ファーストセットはなかなか自分のペースにすることができなくて簡単にポイントが進んでいってしまいました。監督が相手の弱点を教えてくれたのですが、そのことで頭がいっぱいになってしまい何もすることができないままファーストセットを落としてしまいました。

セカンドセットは、監督にもはげまされ気合いも入りよいスタウトがきれいでした。ファーストセットでは全くちがう自分になれました。よく足も動き、ネットプレーにもいつもよりたくさんできました。しかし、もう1本のところで集中がもたなかったり、つめがあまかったりしてセカンドセット2という数字になってしまいとても悔しい思いをしました。

2日目の桂林戦は快勝することができました。少し打ち急いでしまったり簡単なミスもしてしまい、どんな相手でもいつも同じプレーをしなくてはいけないと思いました。

3日目の中国戦は1番悔しい試合でした。韓国戦ではスタートがあまりよくなかったのが、今回は最初から、気合いを入れコートに入りました。相手は、ハードヒッターで、私がしぶとくやっていたらミスをしてくれます。相手も最初はミスをたくさんしていましたが、5-3とリードした時からチェンジオブペースをしてきて打たされてしまい、すぐに追いつかれてしまいました。大切なところでサーブが入らなかったり、長いラリーをものにすることができず、ファーストセット、タイブレークという接戦で落としてしまいました。

セカンドセットは、相手の選手にアクシデントがあって思うようにプレーができないにもかかわらず、私が逆にあせってしまい、「早く決めよう」という気持ちになってしまいました。監督は、「相手は関係ない、ファーストセットのような自分のプレーをしよう」と何度もはげましてくれました。

もう少しのところでは決めきれない、大事なポイントへの気持ち、勝負強さの違いが、セカンドセット5-7という結果になってしまったのだと思います。ダブルスは日本がとり、シングル4も夜おそくまで激戦をしたのですが、残念ながら負けてしまいました。

この遠征にくる前、時分は世界のテニスについていけるか心配でした。しかし、中国、韓国の選手と対戦してみて自分も十分戦っていけると思いました。そして対戦を終えて、今後の課題もみつかりました。それを、これからの自分のテニスに生かしていきたいです。悔しさいっぱいの試合でしたが、とても楽しかったです。



日本代表の自覚

桑田 寛子（早稲田実業学校高等部）

今回の日中韓戦遠征を終えて私が一番強く感じた事は、仲間の大切さでした。そして、それと同時に、感謝の気持ちを常に持ち続けている事が大切だと思いました。

私はこの遠征に早稲田実業の代表であり、また日本の代表なのだという自覚を持って臨みました。私がこの遠征に参加できたのは、私一人の力では無いと思っています。早実は団体戦で一人一人の役目があり、そしてみんなが一丸となって試合に勝って行くという方針の学校です。私が個人戦で良い結果を出せたのも、全てみんなのおかげだと思っています。また、今回の遠征で共に戦った仲間は、半分以上が初めて喋る人ばかりで、最初はとても不安でした。

でも、靱での強化練習などもあったおかげで、女子のメンバーはもちろん男子のメンバーとも良い仲間になって行きました。私はシングルス1として試合に出ることが多いので、自分に勝敗がかかる試合の経験はあまりありませんでした。でも、その時のみんなの応援が心強くて、本当に勝ちたいと思えることができました。出会ったばかりで、でも本当に応援が心に響いたので、一緒に戦える仲間は大切だな、と思いました。

また、テニスだけでなく日本代表できた他の選手の人たちに応援されたり、通訳の人と仲良くなったりと、たくさんの人と関わりを持つことができ、多くの人に支えられました。このような、様々な事を学べるこの遠征に自分が選ばれた事に感謝したいと思うし、ホテルやテニスコートなどで良い環境を与えてくださった中国の方々にも本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

中国では、食べ物が口に合わなかったり、言葉が通じなかったりと、いろいろと大変な事がありましたが、テニスの試合やその他色々な事が、私にとってとても良い経験になりました。引率して下さった先生方、ほんとうにありがとうございました。



勝ちへのこだわりを強く持つこと

桑田 寛子（早稲田実業学校高等部）

初日は韓国との試合でした。普段あまり外国人と試合をしたりする機会が無いので、球の速さに圧倒されて自分のペースをつかむことができなく1stセットを簡単に落としてしまいました。1stセットの最後の方はラリー戦になる事が多く、その中でどちらが先にしかけるかによってポイントが左右してしまいました。でも、逆にほんの少しの差しかなかったので、2ndセットは一本でも多くそのしかけを自分からしてペースをつかめるように慎重に行きました。この試合の全体を通して、自分のバックの調子が良くなかったのも、その中でできる事を考えたら、バックのクロスラリーでは打ち合って勝てなかったのもストレートにすぐながしてフォアのラリーから展開して行く事を考えてやりました。韓国人の球はやっぱり速くて重かったので、それにもっと速く対応していかなければならないと思いました。

2日目は地元の桂林との試合で、3日目は中国との試合でした。中国戦での試合も、サーブのスピードが速くて、ストロークにも韓国人以上にパワーがあり、ラリー戦になったとしても相手にエースを取られるという事が何度もありました。打ち合っても勝てないと思ったのでいつもよりラリーのスピードを落として相手を振って行こうと考えました。それが効いたのか相手は足をつってしまい、ミスも多くなり、このまま自分のペースに持って行けば勝てるのではないかと思いました。

でもそれは甘い考えで、中国人は足をつってからのプレーが本当にしつこかったです。少しでも甘い球を打ったら、一発今まで以上にすごい勢いの球が返ってきて、全く取れませんでした。そういう時でこそ冷静に自分のテニスをするべきだったのに、どこか緊張してかたくなってしまった部分があったので、最後の最後にポイントを取りきれませんでした。このような状況でいながらも負けてしまったことで、自分の精神面の弱さを痛感しました。

外国人の選手だけでなく、今回の遠征で一緒に戦った仲間の試合を含め、このようなレベルの高い試合を見ていて、やはりトップの選手は勝ちへのこだわりを強く持っているなど感じました。試合を見ていて、自分の足りない部分や他の選手から学ばなければならないものをたくさん見つけました。

今回の試合で得たものを、これからの自分のテニスに活かしてもっと強くなりたいです。

8月25日 韓国戦 (男子)

日 本 JPN	3 : 2	韓 国 KOR
S 1 大野 貴央	0 (2 : 6) 2 (0 : 6)	OH DAE SOUNG
S 2 廣田 耕作	1 (4 : 6) 2 (7 : 6) (3 : 6)	YOON DANIEL
D 長尾克己・大野貴央	2 (7 : 6) 0 (6 : 4)	OH DAE SOUNG YOON DANIEL
S 3 渡辺 輝史	2 (6 : 2) 0 (6 : 2)	KIM KWI TAE
S 4 長尾 克己	2 (6 : 2) 0 (6 : 2)	HWANG HYUN JOONG

韓国戦 (女子)

日 本 JPN	3 : 2	韓 国 KOR
S 1 大竹 志歩	1 (6 : 0) 2 (5 : 7) (0 : 6)	KIM YUN HEE
S 2 松島美智留	0 (0 : 6) 2 (2 : 6)	JEONG YOON YOUNG
D 大竹志歩・荒木史織	2 (6 : 3) 0 (7 : 6)	KIM YUN HEE KIM SO YEON
S 3 桑田 寛子	2 (2 : 6) 1 (6 : 1) (6 : 3)	KIM SO YEN
S 4 荒木 史織	2 (6 : 2) 0 (6 : 2)	SIM A RAM



8月26日 桂林戦 (男子)

日 本 JPN	5 : 0	桂 林 GUILIN
S 1 廣田 耕作	2 (6 : 3) 0 (6 : 0)	WANG HUFU
S 2 長尾 克己	2 (6 : 0) 0 (6 : 0)	QIN JIAWEI
D 長尾克己・大野貴央	2 (6 : 1) 0 (6 : 2)	WANG HUFU PAN CONG
S 3 大野 貴央	2 (6 : 0) 0 (6 : 0)	WANG HUFU
S 4 渡辺 輝史	2 (6 : 1) 0 (6 : 1)	PAN CONG

桂林戦 (女子)

日 本 JPN	5 : 0	桂 林 GUILIN
S 1 桑田 寛子	2 (6 : 1) 0 (6 : 0)	WANG XIAYU
S 2 荒木 史織	2 (6 : 0) 0 (6 : 0)	YANG XIN
D 大竹志歩・桑田 寛子	2 (6 : 0) 0 (6 : 0)	WANG XIAYU CAI LIWEI
S 3 松島美智留	2 (6 : 1) 0 (6 : 0)	XIE YI
S 4 大竹 志歩	2 (6 : 0) 0 (6 : 1)	YANG XIN



8月27日 中国戦 (男子)

日 本 JPN	0 : 5	中 国 CHN
S 1 大野 貴央	0 (2 : 6) 2 (2 : 6)	J I A N G C H U A N
S 2 廣田 耕作	1 (6 : 2) 2 (0 : 6) (2 : 6)	Z H A N G Z E
D 長尾克己・大野貴央	1 (1 : 6) 2 (6 : 3) (1 : 6)	J I A N G C H U A N Z H A N G Z E
S 3 渡辺 輝史	0 (4 : 6) 2 (2 : 6)	M A Y A N A N
S 4 長尾 克己	0 (2 : 6) 2 (2 : 6)	W U C H E N Y U

中国戦 (女子)

日 本 JPN	1 : 4	中 国 CHN
S 1 大竹 志歩	0 (6 : 7) 2 (3 : 6)	Z H O U X I A O
S 2 松島美智留	0 (6 : 7) 2 (5 : 7)	L U J I A X I A N G
D 大竹志歩・荒木史織	2 (7 : 5) 0 (7 : 6)	L U J I A X I A N G Z H O U X I A O
S 3 桑田 寛子	1 (2 : 6) 2 (7 : 6) (4 : 6)	Q I U S I S I
S 4 荒木 史織	0 (0 : 6) 2 (2 : 6)	L U J I A J I N G

